

平成13年度 校内共同研究計画

仙台市立黒松小学校

1. 研究主題 「総合的な学習の時間」の授業づくり

2. 主題設定の理由

地域や児童の実態から

地下鉄沿線上の住宅地で、黒松駅をはじめ、仙台市科学館や文学館などの公的な機関や施設にも近い。市営・県営・公社・公団・民間マンション等の集合住宅が多く、児童のほとんどは、このような集合住宅から通学している。保護者の多くは、他地域からの転入者であり、将来転居を予定している家庭も多い。また、東南アジアを中心に外国出身者を保護者に持つ家庭も徐々に増えつつある。

そのため地域への定着意識や協力関係が持てず、学校に依存したり期待したりする保護者も多い。また、家庭本来の教育力を失っている保護者もいる。要保護・準要保護家庭も1割と多い。しかし、保護者の多くは、協力的で父母教師会も活発である。

一方、児童においては、こうした家庭や生活環境を背景に、基本的な生活習慣が十分身に付いていない、基礎学力が低下しているといった子が多く見られる。特に基礎学力に関しては、どの学年においてもその格差が大きく、個に応じた指導のあり方が課題となっている。

家庭の経済的な格差も大きく、豊かな社会体験が不足している児童も多い。また、身の回りや地域への関心が浅く、自分たちの問題に気付かないで過ごしたり、課題を与えられないと自分からは取り組めない等の実態も見られる。

しかし、人なつこい、男女の仲がよい、作業学習を好む、興味関心があることには熱心に取り組む等の積極面もある。

そこで、身近な友人と触れ合いながら、お互いの学び合いや高め合いを大切にし、身の回りの社会や自然に対する豊かな体験活動をさせていくことで、人々や環境（地域）に対する興味関心が高まり、自ら学ぶ意欲を高め、主体的に学習に取り組むことができるようになるのではないかと考える。

本校教育目標から

今回の学習指導要領の改訂を受けた教育目標に、「進んで社会の変化に対応できる生きる力をそなえた児童の育成」を示している。これには、知識を教え込むことに偏りがちであった教育の基調を転換し、児童に自ら学び、自ら考える力を育成する、という願いが込められている。

本校においては、「豊かな情操と健康な体及び創造的な知性を養い、生きる力を備えた児童の育成」を教育目標にかかげ、本年度は「基礎的・基本的事項の確実な習得」「黒松ならではの特色ある教育活動」「総合的な学習の時間」の充実等を努力目標とし、具現化に努める事となっている。

「総合的な学習の時間」においては、児童の学びの土台となる、基礎基本の育成や主体的な学び方の習得、各教科との関連といった視点から、教育課程全体の見直しを行い、今年度以下のような新しい試みをスタートさせる。

二期制の導入（子ども達の個々の学習を保証するためのゆとりの生みだし）
スキルタイムの新設（基礎学力の育成と充実）
算数における少人数指導・・・3年以上（個に応じた指導の充実）
全国標準学力テストの実施（児童の学習状況の把握と個に応じた評価への模索）
情報教育の時間の設置・・・1，2年20時間，3年以上は総合の中から35時間をあてる。（コンピュータリテラシーの系統的指導の推進）
地域人材バンクのデータベース化と外部講師の積極的活用（学習形態の工夫，児童の学習への支援）

前年度の取り組みから

本校における「総合的な学習の時間」の取り組みは本年度で2年目となる。

昨年度は「人とのかかわり」を柱として，各学年ごとのテーマを設定し，授業実践に取り組んだ。初めての取り組みということから，各学年とも試行錯誤を繰り返し，手探り状態での実践となったが，全学年で実施した提案授業によって，以下のような具体的な課題が浮かび上がってきた。

（「平成12年度版：校内研究のまとめ」参照）

児童への課題の持たせ方と教師の支援のあり方
課題解決学習のシステム化
評価のあり方，評価方法の工夫
他教科との関連を図るための教育課程の見直し
特殊学級独自の取り組みの必要性

また，一方サブテーマとして設定した「人とのかかわり」に関しては，

かかわりを「人」（自分，友達，他者）に限定したことで，実践研究の幅がやや狭められた。
人とのかかわりを抜きにした学習活動といったものではなく，教師はあらゆる場面でこのかかわりを意識し，日常の学習活動を行っている。
「人」以外にも，例えば「もの」（動物，植物，自然等）や「こと」（地域，歴史等）など，もっと広い意味でのかかわりを大切にした学習活動も考えられるのではないか。

等の反省が出された。

そこで今年度は，来年度の完全実施に向け，あえてサブテーマは設定せず，新しい単元の発掘，昨年の課題と反省を加味した実践研究に視点を当て，「総合的な学習の時間」の授業づくりを試みたいと考えた。

以上，地域や児童の実態，学校の教育目標，前年度までの取り組みをもとに，本主題を設定した。

3 . 研究目標

移行期における「総合的な学習時間」の授業づくりを行い，児童が自ら学び，自ら考える力を育てるための支援のあり方を追求する。

4 . 研究仮説

各学年において育てたい力を力を明確にし，児童の思いや願いを生かした活動を行えば，黒松小にあった「総合的な学習の時間」を見つけることができるであろう。

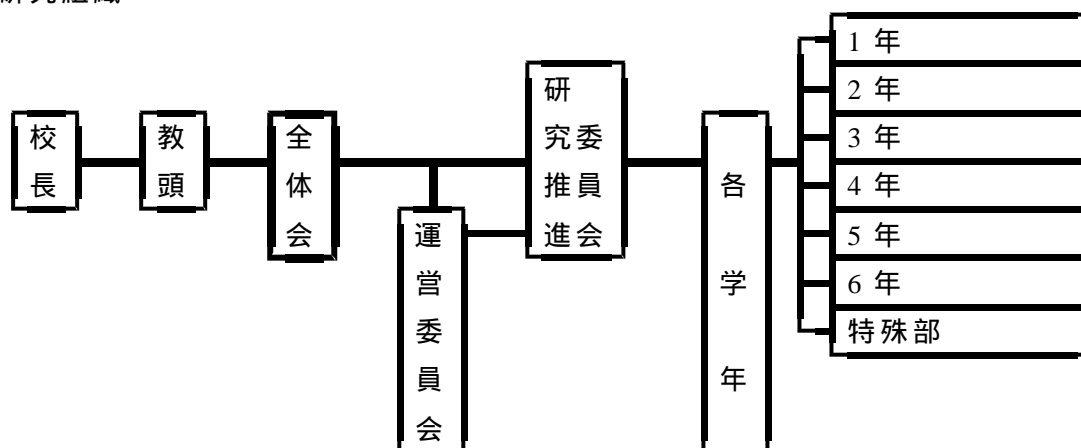
5 . 努力事項

児童が生き生きと取り組むための課題作りと教師の支援のあり方を探る。

児童の変容をつかむための効果的な評価のあり方を探る。

6 . 研究方法

(1) 研究組織



当面，上図の研究組織で取り組み，必要に応じて特別部会や学年部，縦割り等に組み替えを行うことがある。

(2) 研究の進め方

学年ごと研究テーマを設定し実践する。

特殊学級は基本的に特殊部として独自に研究実践を行う。

提案授業，研究全体会以外にも，それぞれの取り組みを積極的に公開し，お互いに研修を深めるようにする。

7. 校内研究年間スケジュール

	内 容
4月	研究計画立案 ・第1回研究推進委員会（研究の方向性） ・職員会議（校内共同研究計画）
5月	・第2回研究推進委員会（研究主題，仮説等の修正，全体会の計画） 研究全体会 （学年研究の構想発表，方向性の確認と共通理解） （スキルタイム，少人数指導，情報教育等における情報交換） ・現職研修（パソコン）「ネットワークの利用」「教務王」「発表名人」等 授業実践
6月	・第3回研究推進委員会
7月	（提案授業1） ・第4回研究推進委員会
8月	・第5回研究推進委員会 研究全体会（中間報告会）
9月	・指導課訪問（八乙女中） ・第6回研究推進委員会
10月	（提案授業2）
11月	（提案授業3） ・第7回研究推進委員会
12月	・第8回研究推進委員会
1月	・研究のまとめ ・第9回研究推進委員会 ・次年度の方向性 研究全体会（今年度のまとめ，報告会）
2月	・第10回研究推進委員会（次年度の方向性） 研究全体会（次年度の方向性について）

8. 総合的な学習の時間を通して子供たちに育てたい力

<総合的な学習の時間のねらい>

- ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- ・学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

<生活科のねらい>

- ・具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身につけてさせ、自立への基礎を養う。

<生きる力（中教審答申）>

- ・自分で課題を見つけ、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力
- ・自分を律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性
- ・たくましく生きるための健康や体力

育 て た い 力

（高学年）

（中学年）

（低学年）

問題を発見し、解決していく能力	課題を吟味し、よりよい解決の仕方を試行錯誤することができる	課題を見つけ、自分なりの方法で解決することができる	自分なりの活動に取り組み、めあてを達成することができる
表現力、コミュニケーション能力	目的に応じた表現方法を工夫し、伝え合うことができる	いろいろな表現方法を工夫し、伝え合うことができる	自分なりの方法で表現し、伝え合うことができる
他人や社会とかかわる能力	いろいろな人々と積極的にかかわり、社会の一員としての自覚を持った活動ができる	学校や身の回りの人たちと積極的にかかわり、他の人を意識した活動ができる	学級の友達や先生と進んでかかわり、相手を意識した活動ができる
情報、資料活用能力	自分の課題解決のために、多くの情報の中から必要な情報を取捨選択し、活用することができる	自分の課題解決のために、いろいろな方法で情報を集め、役立てることができる	学校や地域の人たちから、進んで聞いたり教えてもらったりして、調べることができる
自己評価力能力	学習を振り返り、今後の学習や行動を調整することができる	学習を振り返り、その後の活動に生かすことができる	活動をふりかえり、わかったことやできるようになったことに気づくことができる

< 資 料 > 研究の努力事項（課題づくり，評価に関して）

自ら学ぶ意欲・態度につながる学習習慣

- ・ 教師の話に注意深く聞く習慣
- ・ わからないことを質問する習慣
- ・ 既習事項を生かす習慣
- ・ よりよい解決方法を工夫する習慣
- ・ 誤りの原因を明らかにする習慣
- ・ 参考資料を活用する習慣
- ・ 学習計画を立てて実行する習慣
- ・ 学習したことを自己評価する習慣

素材選択の具体的観点

- ・ 興味関心をもち課題づくりができるか
- ・ 具体的な活動や体験ができるか
- ・ 自分なりのめあてや見通しが持てるか
- ・ 個に応じたかかわり方ができるか
- ・ 適度な抵抗感のある学習活動ができるか
- ・ 継続して何度も接することができるか
- ・ 発展性のある学習活動ができるか
- ・ 活動の成果がわかる学習活動ができるか
- ・ 学年の発達段階に合っているか

「総合的な学習の時間」における評価の原則

子どもの短所を指摘する評価観から長所を伸ばす評価観へ

相対的な評価，数値的な評定から個人内評価への転換

教師中心の評価から子供中心の評価へ（自己評価の重視）



ポートフォリオ評価法における自己評価の観点

学習活動の流れ	ポートフォリオ資料	自己評価の観点
課題発見・設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェビング図 ・ 構想カード ・ 発見カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ その課題は解決可能か ・ 追求するにふさわしい課題か ・ なぜその課題を追求したいか
活動計画作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動計画シート ・ 構想メモ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつ，どんな活動をするのか ・ 活動可能な計画か
探求・まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べ学習カード ・ ワークシート ・ レポート，絵，メモ ・ インタビュー記録 ・ 写真，ビデオ ・ 収集した資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どこでどんな方法で調べるか ・ 工夫したこと，努力したことは何か ・ 困難な点を克服するのにどんな行動をとるか ・ 計画通り進んでいるか，変更すべき事はないか（途中の振り返り）
発表・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表原稿 ・ 写真，ビデオ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番伝えたいことが伝わったか ・ 効果的な発表方法だったか
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価，相互評価カード（コメント） ・ 教師の評価（コメント） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何が分かり，何ができるようになり，何をやり遂げたか ・ 成功，失敗の原因は何か
新たな課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動計画シート ・ 調べ学習カード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題は解決できたか，今後解決すべき新たな課題は何か

単元の流れ（基本形）・問題解決的な学習

流れ	子ども一人一人の学習の流れ	教師のねらい・指導・支援
<p>課題をつかむ</p> <p>課題の追求</p> <p>まとめ・発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問や興味を持つ 「おもしろそう 何だろう どうしてかな」 ・問題をつかみ、自分の課題を決める 「ここが問題だと思う これから調べよう」 ・課題解決のための方法を考え、計画を立てる 「どんな調べ方があるかな」 「この方法でやってみよう」 ・調査・体験・見学・討議・分析をする 「これでいいかな これはおかしいぞ なるほどそうか」 ・結論を持ち、発表する 「まとめてみよう みんなに知らせよう 他の人の意見や発表もよく聞こう」 <p style="text-align: center;">＜スパイラル型の学び＞</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな疑問や課題を発見する 「次はこれを調べよう」 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識を刺激する場面 ・日頃の学習や生活の中からの課題選択、共通テーマからの課題づくりなど (例) <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> (各教科の発展的な課題) (体験活動、フィールドワークから) (コミュニティティーチャー) (写真やVTR, TV, 新聞記事等から) (イメージマップから) </div> ・よりよい課題を設定させる時間の確保 ・課題解決のための方法や情報の提供 ・個人やグループ課題に応じた助言 ・計画に沿った追求への支援 ・自分の考えを深めさせる助言 ・自己評価や学習計画をの見直しをさせる場と時間の確保 ・多様な発表の場と方法の工夫 ・学習成果と自己確認と相互評価の場の設定 ・自己発信力の育成 ・新たな学習活動への意欲付け

< 参考資料 >

「子どもの夢をはぐくむ総合的な学習の時間」
 「平成12年度 総合的な学習実践事例集」
 「総合的な学習実践レポート集」

仙台市教育委員会
 仙台市立荒町小学校
 小学館